

教員養成セミナー 11月号
動画講義

12カ月完成
教職・一般教養
トレーニングブック

◆第2回◆教育原理

生徒指導・学習評価・キャリア教育

講師：大西 圭介

テーマ1

生徒指導

テーマ1

『生徒指導提要』

第1章 生徒指導の意義と原理

第1節 生徒指導の意義

1 生徒指導の意義

生徒指導とは、一人一人の児童生徒の**人格を尊重**し、**個性の伸長**を図りながら、**社会的資質**や**行動力**を高めることを目指して行われる教育活動のことです。すなわち、生徒指導は、すべての児童生徒のそれぞれの**人格のよりよき発達を目指すとともに**、学校生活がすべての児童生徒にとって有意義で興味深く、充実したものになることを目指しています。生徒指導は学校の教育目標を達成するうえで重要な機能を果たすものであり、**学習指導と並んで**学校教育において重要な意義を持つものと言えます。

※冊子版では「...よりよい発達を目指すとともに、...」

テーマ1

『生徒指導提要』

第5章 教育相談 第1節 生徒指導と教育相談

教育相談は、児童生徒それぞれの発達に即して、好ましい人間関係を育て、生活によく適応させ、自己理解を深めさせ、人格の成長への援助を図るものであり、決して**特定の教員だけが行う性質のものではなく、相談室だけで行われるものでもありません。**

教育相談の目的を実現するためには、**発達心理学や認知心理学、学校心理学**などの理論と実践に学ぶことも大切です。また、学校は教育相談の実施に際して、計画的、組織的に情報提供や案内、説明を行い、実践することが必要となります。

(中略)

教育相談と生徒指導の相違点としては、**教育相談は主に個に焦点**を当て、面接や演習を通して個の内面の変容を図ろうとするのに対して、**生徒指導は主に集団に焦点**を当て、行事や特別活動などにおいて、集団としての成果や変容を目指し、結果として個の変容に至るところにあります。

テーマ1

『生徒指導提要』

第5章図表5-3-3 教育相談でも活用できる新たな手法等

手法名	概要
グループエンカウンター	「エンカウンター」とは「出会う」という意味。 グループ体験を通じ、他者と自分に出会うこと を意味する。 人間関係作りや相互理解 を目指す。学級作りや保護者会などに活用できる。
ピアサポート活動	「ピア」とは児童生徒「同士」という意味。児童生徒の社会的スキルを「ウォーミングアップ」「主活動」「振り返り」という流れを一単位として、段階的に育て、児童生徒同士が互いに支えあう関係を作るためのプログラムである。
ソーシャルスキルトレーニング	様々な社会的スキルをトレーニングにより育てる方法。「 相手を理解する 」「 自分の思いや考えを適切に伝える 」「 問題を解決する 」「 集団行動に参加する 」などを目標とする。
アサーショントレーニング	対人場面で自分の伝えたいことをしっかり伝えるためのトレーニング。「断る」「要求する」といった葛藤場面での自己表現や、「ほめる」「感謝する」「援助を申し出る」といった 他者とのかわりをより円滑にする 社会的行動の獲得を目指す。
アンガーマネジメント	自分の中に生じた怒りの対処法を段階的に学ぶ方法。 段階的に怒りなどの否定的感情をコントロール可能な形に変えることを目指す 。また、呼吸法、動作法などリラックスする方法を学ぶやり方もある。
ストレスマネジメント教育	様々な ストレスに対する対処法を学ぶ手法 。ストレスについての知識の獲得、「リラクゼーション」、「対処法」というプロセスを踏む。危機対応などによく活用される。
ライフスキルトレーニング	自分の身体や心、命を守り、健康に生きるための トレーニング。「自尊心の維持」「意思決定スキル」「自己主張コミュニケーション」「目標設定スキル」などの獲得を目指す。喫煙、飲酒、薬物、性などの課題に対処する方法。
キャリアカウンセリング	職業生活に焦点を当て、自己理解を図り、将来の生き方を考え、自分の目標に必要な力の育て方や、職業的目標の意味について明確になるようなカウンセリング的方法。

テーマ1

いじめ防止対策推進法③

いじめの定義

この法律において「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。

「一定の人的関係」とは、
学校の内外を問わない

（いじめ防止対策推進法第2条第1項）

テーマ1

いじめ防止基本方針

6 いじめの理解

いじめは、**どの子供にも、どの学校でも、起こりうる**ものである。とりわけ、嫌がらせやいじわる等の「**暴力を伴わないいじめ**」は、多くの児童生徒が入れ替わりながら被害も加害も経験する。また、「**暴力を伴わないいじめ**」であっても、何度も繰り返されたり多くの者から集中的に行われたりすることで、「**暴力を伴ういじめ**」とともに、**生命又は身体に重大な危険**を生じさせうる。

テーマ1

いじめ防止基本方針②

7 いじめの防止等に関する基本的考え方

(1) いじめの防止

いじめは、**どの子供にも、どの学校でも起こりうる**ことを踏まえ、より根本的ないじめの問題克服のためには、全ての児童生徒を対象としたいじめの未然防止の観点が必要であり、全ての児童生徒を、いじめに向かわせることなく、心の通う**対人関係**を構築できる社会性のある大人へと育み、**いじめを生まない土壌をつくる**ために、関係者が一体となった継続的な取組が必要である。

テーマ1

いじめ防止基本方針③

7 いじめの防止等に関する基本的考え方

(1) いじめの防止の続き

このため、学校の教育活動全体を通じ、全ての児童生徒に「いじめは決して許されない」ことへの理解を促し、児童生徒の豊かな情操や道徳心、自分の存在と他人の存在を等しく認め、お互いの人格を尊重し合える態度など、心の通う人間関係を構築する能力の素地を養うことが必要である。また、いじめの背景にあるストレス等の要因に着目し、その改善を図り、ストレスに適切に対処できる力を育む観点が必要である。加えて、全ての児童生徒が安心でき、自己有用感や充実感を感じられる学校生活づくりも未然防止の観点から重要である。

テーマ1

不登校児童生徒とは

不登校の定義

連続又は断続して年間30日以上欠席し、「何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しないあるいはしたくともできない状況である（ただし、病気や経済的な理由によるものを除く）」もの。

テーマ1

不登校児童生徒への支援の在り方について(通知)

1 基本的な考え方

(1)支援の視点

不登校児童生徒への支援は、「**学校に登校する**」という**結果のみを目標にするのではなく**、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指す必要があること。

1 基本的な考え方

(2) 学校教育の意義・役割

特に義務教育段階の学校は、各個人の有する能力を伸ばしつつ、社会において自立的に生きる基礎を養うとともに、国家・社会の形成者として必要とされる基本的な資質を培うことを目的としており、その役割は極めて大きいことから、学校教育の一層の充実を図るための取組が重要であること。また、不登校児童生徒への支援については児童生徒が不登校となった要因を的確に把握し、学校関係者や家庭、必要に応じて関係機関が情報共有し、組織的・計画的な、個々の児童生徒に応じたきめ細やかな支援策を策定することや、社会的自立へ向けて進路の選択肢を広げる支援をすることが重要であること。さらに、既存の学校教育になじめない児童生徒については、学校としてどのように受け入れていくかを検討し、なじめない要因の解消に努める必要があること。

また、児童生徒の才能や能力に応じて、それぞれの可能性を伸ばせるよう、本人の希望を尊重した上で、場合によっては、教育支援センターや不登校特例校、ICTを活用した学習支援、フリースクール、中学校夜間学級（以下、「夜間中学」という。）での受入れなど、様々な関係機関等を活用し社会的自立への支援を行うこと。

その際、フリースクールなどの民間施設やNPO等と積極的に連携し、相互に協力・補完することの意義は大きいこと。

不登校児童生徒への支援の在り方について(通知)

2 学校等の取組の充実

(1) 「児童生徒理解・教育支援シート」を活用した組織的・計画的支援

不登校児童生徒への効果的な支援については、学校及び教育支援センターなどの関係機関を中心として組織的・計画的に実施することが重要であり、また、個々の児童生徒ごとに不登校になったきっかけや継続理由を的確に把握し、その児童生徒に合った支援策を策定することが重要であること。その際、**学級担任、養護教諭、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の学校関係者が中心**となり、児童生徒や保護者と話し合うなどして、「**児童生徒理解・教育支援シート（試案）**」を作成することが望ましいこと。これらの情報は関係者間で共有されて初めて支援の効果が期待できるものであり、必要に応じて、**教育支援センター、医療機関、児童相談所等、関係者間での情報共有、小・中・高等学校間、転校先等との引継ぎが有効**であるとともに、支援の進捗状況に応じて、定期的にシートの内容を見直すことが必要であること。

テーマ2

学習評価

テーマ2

学習評価とは

学習評価は、学校における教育活動に関し、児童生徒の**学習状況**を評価するものである。

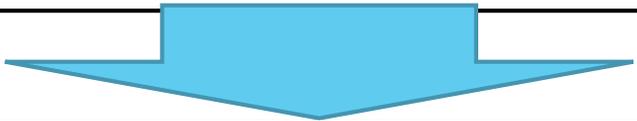
各教科における評価の基本構造

学習指導要領に示す目標や内容

知識・技能

思考力・判断力・
表現力等

学びに向かう力・
人間性等



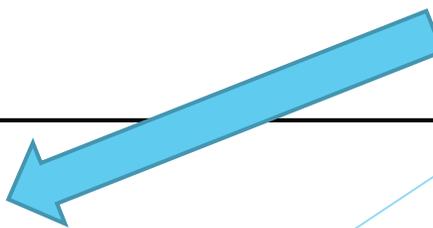
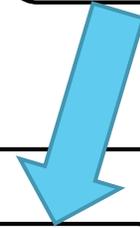
観点別学習状況評価の
各観点

知識・技能

思考・判断・表現

感性・思いやり

主体的に学習に取り
組む態度



評価

個人内評価



テーマ2

知識・技能の評価方法

ペーパーテストにおいて、事実的な**知識の習得を問う**問題と、**知識の概念的な理解を問う**問題とのバランスに配慮するなどの工夫改善を図るとともに、例えば、児童生徒が文章による説明をしたり、各教科等の内容の特質に応じて、観察・実験をしたり、式やグラフで表現したりするなど実際に知識や技能を用いる場面を設けるなど、多様な方法を適切に取り入れる。

テーマ2

思考・判断・表現の評価方法

論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作や表現等の多様な活動を取り入れたり、それらを集めたポートフォリオを活用したりするなど評価方法を工夫する

テーマ2

主体的に学習に取り組む態度の評価方法

ノートやレポート等における記述、**授業中の発言**、教師による**行動観察**や、児童生徒による**自己評価**や**相互評価**等の状況を教師が評価を行う際に考慮する材料の一つとして用いることなど。

テーマ3

キャリア教育

テーマ3

キャリア教育が求められる背景

情報化・グローバル化・少子高齢化・消費社会等

学校から社会への移行をめぐる課題

①社会環境の変化

- ・新規学卒者に対する求人状況の変化
- ・雇用システムの変化

②若者自身の資質等をめぐる課題

- ・勤労観、職業観の未熟さと確立の遅れ
- ・社会人としての基礎的資質・能力の発達の遅れ
- ・社会の一員としての経験不足と社会人としての意識の未発達傾向

子どもたちの生活・意識の変容

①子供達の成長・発達上の課題

- ・身体的な早熟傾向に比して、精神的・社会的自立が遅れる傾向
- ・生活体験や社会体験等の機会の喪失

②高学歴社会における進路の未決定傾向

- ・職業について考えることや、職業の選択、決定を先送りにする傾向の高まり
- ・自立的な進路選択や将来計画が希薄なまま、進学、就職する者の増加

学校教育に求められている姿

「生きる力」の育成～確かな学力、豊かな人間性、健康・体力～

テーマ3

キャリア教育

キャリア教育の定義

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、**キャリア発達を促す教育**。

キャリア発達とは

社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を
実現していく過程。

テーマ3

今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)

社会的・職業的自立、学校から社会・職業への 円滑な移行に必要な力の要素

- ・ **基礎的・基本的な知識・技能** (小学校からの「読み・書き・計算」の能力の育成等、税金や社会保険、労働者の権利・義務等の理解)
- ・ **基礎的・汎用的能力** (「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の4つ)
 - ・ **論理的思考力、創造力**
 - ・ **意欲・態度及び価値観**
 - ・ **専門的な知識・技能**

テーマ3

今後の学校におけるキャリア教育・ 職業教育の在り方について(答申)

「人間関係形成・社会形成能力」

多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協同して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力。

「自己理解・自己管理能力」

自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力。

テーマ3

今後の学校におけるキャリア教育・ 職業教育の在り方について(答申)

「課題対応能力」

仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力。

「キャリアプランニング能力」

「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力。